

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立第三商業高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)

(2) 事務局の構成

副校長、主任教諭(総務担当主任)=事務局長、主幹教諭(教務主任兼務)、経営企画室長
計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務、1学年、2学年、3学年)、主任教諭(教務部総務担当、生活指導、進路指導) 計10名

(4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)

保護司、近隣中学校長、近隣保育園長、近隣警察署生活安全課スクールサポーター、
近隣町会会長、近隣都産業連盟事務局長、近隣企業、同窓会理事(事務局長)
PTA会長 計9名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1~3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月6日(金) 内部委員9名、協議委員7名

- ・協議委員委嘱及び委員紹介
- ・令和6年度学校経営報告
- ・令和7年度学校経営計画
- ・各校務分掌・学年からの報告
- ・意見交換・協議

第2回 令和7年11月28日(金) 内部委員10名、協議委員4名

- ・学校評価アンケートについて
- ・意見交換・協議

第3回 令和8年2月6日(金) 内部委員9名、協議委員8名

- ・今年度の取り組みの総括
- ・学校評価アンケートについて

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月6日(金) 内部委員9名、協議委員7名

- ・意見交換

第2回 令和7年11月28日(金) 内部委員10名、協議委員4名

- ・今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討
- ・意見交換

第3回 令和8年2月6日(金) 内部委員9名、協議委員8名

- ・意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 評価の観点

- ① 教育活動全般: 学校生活満足度、生徒の様子、生活の重点、学習と部活動・行事との両立、資格取得、施設・設備、地域との連携等
- ② 学習指導: 習熟度別授業、少人数制授業、補習・補講、授業評価、将来への活用、学習時間等
- ③ 生活指導: 規律ある学校生活、遅刻・頭髪指導、社会のルールやマナー、安全や健康管理の指導等
- ④ 進路指導: 進路情報の提供、個別面談、進路相談、進路指導室の充実等
- ⑤ 図書館利用度、読書活動
- ⑥ 働き方改革、いじめ未然防止、早期発見・解決

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・12月 全校生徒 対象: 460人 回収: 401人 回収率: 87.2%(78.8%)
- ・12月 保護者全員 対象: 460人 回収: 199人 回収率: 43.3%(36.9%)
- ・1月 教職員 対象: 43人 回収: 34人 回収率: 79.1%(73.2%)
- ・2月 地域・住民 対象: 9人 回収: 7人 回収率: 77.8%(88.9%)

(3) 主な評価項目

- ① 本校の教育活動全般
- ② 学習指導
- ③ 生活指導
- ④ 進路活動
- ⑤ 読書活動
- ⑥ 働き方改革・いじめ問題

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容、カッコ内の数字は昨年度）

- ① 生徒のアンケートの回収率は87.2%(昨年78.8%)で10%程度上昇した。また、保護者、教職員ともに約6%上回っており、回収率の改善が見られた。アンケート内容については昨年度と大幅な変更はない。以下、良否、前進・後退の判断や原因分析を行う。
- ② 82.5%の生徒が、「入学してよかった」という問いに「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答（以下、「肯定的回答」という）しており、昨年度の85.8%よりやや減少したものの、8割を超える生徒が肯定的に評価している。また、「様々な資格を取得することができる」では97.2%、「学校での学習は、将来役に立つと思う」では90.8%の生徒が肯定的に回答をしている。

本校はアドミッション・ポリシーに「資格取得に挑戦し、自らすすんで自己の進路を切り開いていくことができる生徒」を掲げている。9割を超える生徒が、学校で資格取得ができる、学習が将来に役立つと受け止めていることは、学校が求めるものと生徒の実感が重なっていることを意味しており望ましいことと言える。さらに、「学校行事が充実している」に89.3%、「PC教室・体育館・プール等の施設・設備が充実している」に95.5%の生徒が肯定的な回答をしており、昨年度の83.8%、93.3%からやや増加している。多様な学習活動を展開することにより、生徒の満足度が増す傾向が続いているものと推察される。

- ③ 保護者の90.5%も「入学させてよかった」と答えている。昨年度は91.1%、一昨年度は90.2%であるから、保護者の満足度は高い状態で継続していると言える。「様々な資格を取得することができる」に99.0%、「学校での学習は、将来役に立つと思う」に93.0%の保護者が肯定的な回答をしており、生徒と同様の傾向がうかがえる。また、昨年度の96.5%、91.1%から肯定的回答は増加しており、資格取得と進路に結び付く学習は、保護者にも十分に支持されている。教員の「生徒は、第三商業に入学してよかった」という回答は91.2%であった。昨年度は83.3%、令和5年度は76.5%、令和4年度は64.5%と肯定的評価が1割ずつ増えている。教師が生徒の入学を肯定的に捉えるのは、本校の教育が生徒に役に立っているという認識からであり望ましい変化である。引き続き「入学してよかった」「入学させてよかった」で高い評価を維持していくためには、様々な資格取得を含め、実学としての教育、授業力向上、生活指導及び進路指導の充実を進めていかなければならない。
- ④ 学習指導について、「習熟度別授業は、自分の学習ペースにあっていて、授業理解に役立っている」88.5%、「先生の授業はよく工夫されている」91.3%、「放課後等に質問ができる機会を設けてくれて、的確に答えてもらえる」86.1%の生徒が肯定的な回答をしている。それぞれ、昨年度の86.4%、89.2%、82.8%から僅かながらではあるが増加しており、生徒の実態に応じたきめ細やかな指導が展開されていることがうかがえる。これらに対する保護者の回答は、それぞれ88.9%、86.4%、82.9%であり、生徒の傾向と同様、昨年度のそれぞれ79.8%、80.5%、74.0%から肯定的な回答が増加している。また、教職員も同様の質問にそれぞれ85.3%、94.1%、91.2%が肯定的な回答となっており、昨年度の83.3%、90.0%、86.6%から増加している。三者とも同様の傾向がうかがえ、学習指導の方法やその改善について、三者が同じ方向を向いていると言える。この共通認識を基盤に、教師は、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を喚起するような授業力を身に付け、主体的・対話的で深い学びにつなげていかなければならない。

「成績の振るわなかった生徒に対しての朝や放課後、休日の補習は充実している」の問いに、生徒は81.3%、保護者は80.4%、教員82.3%が肯定的回答をしており、補習に対する認識に差は見られなかった。昨年度の78.3%、72.2%、70.0%から、三者とも肯定的な回答が増えており、補習の充実を反映しているようである。自宅での学習時間について、「30分未満」70.8%（昨年度49.1%）、「1時間程度」21.7%（同30.2%）、「1～2時間」6.0%（同14.2%）「2時間以上」1.5%（同6.5%）と、昨年度と比べ自宅での学習時間が短い傾向が明らかになった。この傾向は一昨年度から続いており、学習習慣の確立に向けた指導に改めて取り組む必要がある。生徒が家庭学習の習慣を身に付けられるよう、引き続き適切な課題を与えるなど生徒の学習意欲を高める工夫が求められる。

- ⑤ 「進路を考えるには規律ある学校生活が必要」という問いに、生徒の90.2%が肯定的回答をして

おり、昨年度の90.8%とほぼ同様であった。同じ問いに、保護者の92.5%、教員の94.2%も肯定的回答をしており、生徒、保護者、教員がおおむね共通の意識をもって取り組んでいることがうかがえる。

本校では、生活指導の根幹として、社会のルールを守るための指導を徹底している。遅刻や頭髪指導等の「マナー指導等の規律がしっかりしている」に対して、生徒は84.1%（昨年度86.3%）が肯定的回答をしており、ここ数年同じ傾向である。同じ問いに対し、保護者も83.0%（同81.6%）が肯定的回答をしている。一方、教員が58.9%（同40.0%）と、生徒や保護者に比して低い数字となっている。生徒、保護者はマナー指導が徹底していると感じているが、教員は不十分であると感じている。生徒、保護者と教職員の認識の差は昨年度より小さくなっているが、ルール・マナーの重要性について、生徒が自ら実行し定着できるよう、生徒、保護者、教員が共通理解をしながら指導を進める必要がある。

- ⑥ 進路指導について、「1年次からの進路指導は役立っている」に対する生徒の肯定的回答が90.8%で、昨年度の93.6%と同程度であった。進路情報の提供、個に応じた進路指導、進路相談等に関する肯定的回答は85%を超え、進路情報が十分に提供されていると感じる生徒は96.2%に上っている。保護者も1年次からの進路指導の肯定的回答が89.0%で昨年度から5%増加した。生徒、保護者ともに進路指導が充実していると感じているようである。また、生徒は「担任との個別指導、興味・関心や能力に応じた適切な進路指導が充実している」「放課後等に進路相談ができる雰囲気や場所がある」に対してそれぞれ90.5%、88.3%が肯定的回答をしている。同じ質問に対して保護者は85.5%、82.9%、教職員は97.1%、94.1%が肯定的回答している。3者ともに個に応じた適切な対応が進路実現に結び付いている。引き続き1年生から進路に興味を持って取り組んでいけるよう進路指導の更なる充実を図っていきたい。
- ⑦ 読書活動について、「図書館を利用している」の生徒の肯定的回答は29.9%、「日頃から読書している」は39.2%で、昨年度の20.6%、31.2%からは改善傾向が見られた。引き続き図書室の利用、未読率の減少、読書の推進を図る手立ての検討を継続していきたい。
- ⑧ 教職員の働き方改革への取り組みについて、「国や都が働き方改革に取り組んでいることを知っている」に対し肯定的な回答をした生徒は56.4%であり、昨年度と同様である。保護者は76.4%とこちらも昨年度と変わらなかった。教員の肯定的回答は100%であり昨年度の76.6%から大幅に増加した。
- ⑨ いじめの未然防止や対策について、「いじめなどの問題について学校はしっかり対応してくれる」に対し、生徒の80.1%が肯定的な回答をしており、昨年度の79.9%と同様である。保護者は80.4%で昨年度の73.4%に比べ肯定的な回答が増加した。一方、教職員は94.1%が肯定的な回答をしており、昨年度の80.0%と比較し、適切な対応をしていると認識している教員が増加した。ただ、教職員の内訳を見ると「（適切な対応をしている）そう思う」35.3%、「だいたいそう思う」が58.8%であった。生徒の多様化に対し、適切な対応を模索していることを反映している。ベテラン教員が退職や異動により若手教員が大幅に増加したことも要因の一つであり、適切な対応ができていないかもしれないという認識は、改善の契機でもある。研修等の充実を図り、若手教員も生徒指導に自信をもって臨めるようにしていきたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

令和7年度は、6月、11月、令和8年2月と対面式での学校運営連絡協議会を開催し、協議委員と会合することで、学校の教育活動の取り組みの成果が伝わりやすく、教員の日頃の学習指導、生活指導、進路指導の現状と成果を伝えることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

東京都の商業教育の取り組みが素晴らしい成果を上げていることを、中学生によりPRすること。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校教育活動全般

生徒の自己実現のために、全教職員で生徒への進路指導の改善・充実を図り、校長の学校経営計画の実現にさらに努める。

(2) 学習指導

生徒の学力定着のため、生徒の実態や理解度を把握しながら、魅力あふれる授業を展開するために学習指導法の改善や教材開発を行い、生徒の学力向上に努める。

(3)生活指導

身だしなみやマナー、自転車の乗り方、遅刻・頭髪指導等を生徒および保護者に周知し、組織的なきめ細かな指導により、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

(4)進路指導

3年間を見通した進路指導計画を改善・充実させ、上級学年や卒業生が講師になって指導する。生徒や保護者に進路情報を計画的に発信し、きめ細かい組織的な指導を行い、生徒の進路希望を実現する。

(5)特別活動

部活動の加入率を向上させるため、全生徒が部活動に加入するように次年度も働きかける。日常的な顧問の指導のもと、指導体制や内容を見直し、年間指導計画に基づく計画的・継続的な指導により、部活動の活性化を図る。

(6)健康・安全教育

道徳教育、主権者教育、ボランティア活動、インターンシップを実施し、生徒の自尊感情、自己肯定感を高める教育の工夫を図る。また、自殺防止の観点やいじめ防止の観点から十分な指導をしていく。

自転車通学での事故防止や、乗り方のマナーの指導の徹底を図るために、東京都の自転車交通安全教室を活用した交通安全指導を実施する。

防災教育、情報モラル教育、薬物乱用防止教室や SNS・携帯教室等のセーフティ教室、健康教室を実施する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1)協議委員人数 9人

(2)学校が良くなったと答えた協議委員の人数 7人

そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない	無回答
2	5	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議、企画調整会議に、協議委員は出席していない。

8 その他

今年度も対面形式で学校運営連絡協議会を3回実施でき、出席率も1回を除き高い率であり、有意義な情報交換ができた。今後も地域の意見を伺いながら、地域に開かれた学校づくりを展開する。